



9月1日は防災の日



防災グッズ・・・あなたのペットは大丈夫？

今年の夏は、異常気象による洪水、地震など、突然やってくる災害の恐ろしさをテレビなどで目にしたのではないのでしょうか？わたしたち人間は避難所に行けば食料や毛布など救済してもらえるかもしれませんが、ワンちゃんやネコちゃんは？わたしたちはもちろん、ペットのための防災グッズも準備しておきましょう。備えあれば憂いなし！

1. 名前・連絡先入りの首輪
2. リード
3. 食事・水
4. 食事・水用の入れ物
5. 犬用シューズ(足場が悪い時のため)
6. ペットシート
7. キャリーバッグ(避難所ではキャリーバッグなどから、ほとんど出せません)
8. 持病の薬など



このほかに、停電した時のために、首輪につけるライトなど光るものがあると良いかもしれませんね。また、怪我をした時のために消毒薬や包帯などもあったらいいですね。(ご相談ください)これもあったらどう？…って物がありましたら教えてください。

必要な物はすぐに揃えることができますが、なにかあってからでは遅いものがあります。それは「しつけ」です。避難所にペットも一緒にいいとしても、他の犬を見て吠えたり、キャリーバッグを嫌がったり、トイレが上手に出来なかったり…他の方に迷惑をかけてしまうこととなります。ペットと一緒に安心して非難が出来るように、今のうちからいろんな事を準備しておくといいかもしれませんね。何も無いのが一番ですけど(^ ^)

血液検査シリーズ 総胆汁酸

総胆汁酸(TBA)は肝臓の機能を評価する検査の1つです。通常、胆汁酸は肝臓内でコレステロールから合成されていて、実際には多くの種類の胆汁酸がありますが、それらをまとめて総胆汁酸として総合的に測定します。

腸管循環

胆汁酸は肝臓で合成された後、一時、胆のうに貯蔵されます。そして、食後に胆汁が小腸へ排出され、小腸内での食物の消化に参加します。その後、胆汁酸は腸管から再吸収されて肝臓に戻り、再利用されます。この腸管からの再吸収は非常に効率が良いため、胆汁中に排出された胆汁酸の約95%をリサイクルすることができ、糞便中に失われる胆汁酸はごくわずかです。このように胆汁酸は肝臓と小腸との

間を循環しているため、これを腸管循環と呼んでいます。

総胆汁酸の上昇

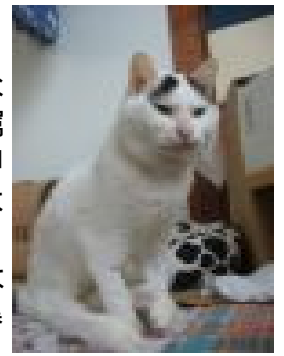
健康な動物の場合、胆汁酸は肝臓の細胞に取り込まれているため、空腹時では血液中にはほとんど存在しません。食後には胆汁が排出され、腸管循環によって肝臓への輸送が起こるため、血液中の胆汁酸は上昇しますが、肝臓ですみやかに再吸収されるので、その上昇はごくわずかです。病的な肝臓の場合は胆汁酸の再吸収ができないため、胆汁酸が血液中に多量に存在するようになります。このように胆汁酸は肝細胞自体の機能を評価するものなので、病気の診断には、その他の血液検査やレントゲン検査などを必要に応じて行い、総合的に判断します。

行楽の秋！マナーを守り、皆が気持ちよく自然と親しめるようにしましょうね。

- * 排泄物は持ち帰ろう！オシッコは出来るだけペットシートでさせて持ち帰ろう。もし、ペットシートで出来なかったら、地面にしみこむ前にペットシートに吸わせて出来る限り持ち帰ろう。犬のオシッコは植物を枯らしますので注意！
- * 交通事故や飛びつき、咬みつき防止のために、道を歩く時は犬と車の間を飼い主が歩く、犬と他人の間を飼い主が歩く、犬と動物の間を飼い主が歩くを、心がけてください。特に狭い山道等では犬を嫌いな方もいることを忘れずにね。また、壁面があるなら壁と飼い主の間を犬が歩くようにしましょう。

わんこ・にゃんこ日記

“高田すてぞう”は今年9月11日で8歳になります。…私が勝手に決めた誕生日なので正確ではありませんが…。すてぞうとの出会いは1997年2月頃、山口大学付属家畜病院です。ちょうど病院の出入り口にいた私の友人に、若い男性がダンボールを押し付けて逃走！ダンボールをあけてみると中にボロボロな猫が入っていました。後肢は伸びたまま動かず足や背中の中程から膿がふきだし、下痢、重度の膀胱炎、腎不全をおこし、正直言って「もうダメかも…」という状態でした。私が飼うことになり、治療には2ヶ月くらいかかりましたが、とりあえず足を引きずりながらも元気です。最初は狂暴な猫でしたが、今は甘ったれなお坊ちゃん猫となり、日々ただらと過ごしています。今年6月にまた腎不全をおこし入院しましたが、今は落ち着いて内服と食事管理をしています。出来るだけ長生きしてほしいものです。そうそう、名前の由来は高田公園の捨て猫だからです。(ダンボールの中の手紙に書いてあった)



by 中村

獣医師の専門科と これからの獣医療

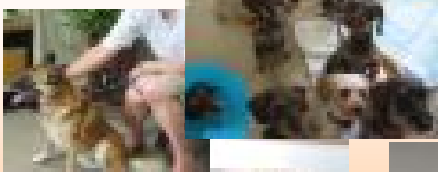
人の病院には内科、外科、眼科、皮膚科、歯科などたくさんの専門科があるのに、動物病院には犬外科、猫内科、エキゾチックアニマル科、犬猫眼科など見たことないですね。不思議に思ったことはないですか？実は動物病院も専門科はあります。皆さんにはあまり知られていませんが、獣医師の中では知られた専門科があります。ただし、人の病院のように専門科以外は診察しないわけではありません。ほとんどの獣医師は日常診療では全ての科目を診察します。そして、専門分野のほとんどは他の獣医師の紹介として診察することが多いのです。そのため、一般の飼主さんにはあまり馴染みがなく、知らない方も多いのです。ただ全ての獣医師が専門を持っているわけではありません。専門を持っている獣医師はごく一部かもしれません。今、各学会において獣医専門医制度の確立を進められている最中です。そのうち、動物整形外科、動物眼科クリニックのような動物病院が出てくる時代がくることでしょう。

ところで飼主さんの中で当院の専門をご存知の方はどれくらいいらっしゃいますか？当院にもちゃんと専門科はあります。当院の専門は眼科です。眼科の患者さんは福岡、熊本、佐賀など遠くから来院されます。獣医眼科はまだまだ遅れた分野で、一般の獣医師が苦手な分野だそうです。それは設備や手技の特殊性のためだと思われます。眼科の手術は、ほとんどが顕微鏡やルーペを使うマイクロサージェリーといわれるものです。使用する糸は、間違いなく髪の毛より細く、角膜を縫う糸は肉眼で見るとはかなり困難なほどです。そのため九州でも白内障や緑内障の手術が行える施設は、数件しかないと聞いています。

どうして動物病院にこのような専門科が出来たと思われませんか？それは飼主さんが獣医師に求める医療レベルが年々高まってきて、以前みたいに一人の獣医師が、全ての分野に精通することが難しくなってきたためです。15年前の獣医療では、今みたいに動物のMRI検査や白内障の手術、癌に対する化学療法などは考えられなかった事だと思います。この15年間、日本の獣医療の進歩は目覚ましいものがありました。このことは、飼主さんの動物に対する考え方が大きく変わってきたためだと思われます。動物がペットから家族へと変わり、家族の一員として認知されているのです。そのため、より良い獣医療を受けさせたいという飼主さんの気持ちがそうさせたのではないかと思います。われわれ獣医師も飼主さんのそういう気持ちに対応できるように、日々勉強し、新しい知識や技術を学んでいかなければなりません。以前のように聴診器ひとつで開院できたり(30年前はそういわれていました)臨床研修なしで開院したり(いまだにそうです)そういう時代はそろそろ終わりです。獣医師でも、人の医師で検討されているような臨床研修の義務付けや医師免許の更新制度を検討していかなければならないと思います。これからのより良い獣医療のためには、これまで以上の飼主さんの家族(動物)への思いと、それに答えようとする獣医師の気持ちが大切なのではないでしょうか。

by 院長 加田

『おはようございます！』
今日も一日の始まりです。



まだまだ暑い日が続いていますが、
皆さんはじめ わんちゃん・ねこちゃん
い

「少し食欲が落ちてるみたい。」
「夏バテ気味です。」
ってよく耳にする声でした。

